

モンゴル帝国が生んだ世界図



[蒙古帝国が生んだ世界図 下载链接1](#)

著者:宮 紀子

出版者:日本経済新聞出版社

出版时间:2007-6

装帧:単行本

isbn:9784532165857

20世紀初頭に西本願寺、1988年に長崎・本光寺で見つかった二つの「混一疆理歴代国都之図」。

朝鮮王朝が絶えず中国地図の入手に腐心し改訂版を作りつけた理由は何なのか、さらにはこれら一連の地図は日本にいったいいつ到來したのか、日本でどのような意味をもったのか。

本巻は、これらの疑問をひとつひとつ解決しながら「混一図」系の複数の世界図ができるまでの過程をなぞるとともに、どうじ中国、朝鮮、日本の王侯貴族、僧侶たちに共有されていた「知」のありようと、地図を権力の象徴、道具として用いた各王朝の政治的事情を描く。

欧洲、アフリカがはっきり描かれたアジア最古の世界図「混一疆理国都之図」とは何か。その地図が示す当時の人々の世界認識はどのようなものか。過去の歴史常識を覆したこの世界図の謎を膨大な史料を元に読み解く。

作者介绍:

宮紀子 [ミヤノリコ]

1972年生まれ、徳島県出身。1999年京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専攻は中国文学。京都大学人文科学研究所助教（本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです）

目录: プロローグ 「混一疆理歴代国都之図」をたどる旅

第1章 二枚の原図をもとめて（清濬と「混一疆理図」；李沢民と「声教広被図」）

第2章

世界はわれらのもの—モンゴル朝廷の「地図」プロジェクト（天文観測と暦；東西世界の合体）

第3章

「中華」の伝統と新たな世界像（清濬たちの参考書—モノクロームの地理情報；『事林廣記』の世界一国と時代を超えたベストセラー）

第4章

王権の象徴として—「混一疆理歴代国都之図」の誕生とそのご（高麗の遺産；朝鮮から日本へ—江戸幕府と世界図）

エピローグ いつか来た道・あらたな地平

・・・・・ (收起)

[モンゴル帝国が生んだ世界図 下载链接1](#)

标签

蒙元史

东亚史

日文

地图

历史地理

历史

元史

东亚文史

评论

[蒙古帝国が生んだ世界図 下载链接1](#)

书评

[蒙古帝国が生んだ世界図 下载链接1](#)